

臨床医学委員会放射線防護・リスクマネジメント分科会(第24期・第2回)
議事要旨

1. 日時 平成30年7月30日(月) 13:00~15:10
2. 場所 日本学術会議5階 5-A会議室
3. 出席者 米倉義晴委員長、續輝久副委員長、神田玲子幹事、青木茂樹委員、秋葉澄伯委員、一ノ瀬正樹委員、稲葉俊哉委員、井上優介委員、遠藤啓吾委員、神谷研二委員、中島聡美委員、安村誠司委員、山下俊一委員

4. 配付資料

- ・臨床医学委員会「放射線防護・リスクマネジメント分科会」(第24期・第1回)議事要旨(案)
- ・平成30年度年次報告 臨床医学委員会(放射線防護・リスクマネジメント分科会)

5. 議事概要

(1) 前回分科会議事要旨案の承認について

米倉委員長より前回の議事要旨案が概説され、承認された。

(2) 今後の活動方針について

米倉委員長より、平成30年度年次報告として執筆した当分科会の『主な活動』について、報告がなされた。また前期に表出した報告に対する質問書への対応が幹事会で承認されたことや今後の活動方針について引き続き議論をすることが説明された。

リスクコミュニケーションに関する検討の充実を図るため、木下富雄氏(国際高等研究所フェロー、京都大学名誉教授)を招聘した。同氏は、リスクコミュニケーションの概論や東電福島原発事故前後のリスク認知の変化、さらにはリスクコミュニケーションの技術について、約1時間の講演を行った。その後、分科会委員と意見交換を行った。

委員からは、リスク比較やリスク-便益分析に関する具体的な質問が多数なされた。木下氏からは、説明手法には正解が一つあるわけではなく、情報の受け手の属性に合わせて、適当な説明方法を選択する必要があることが説明された。

また、リスク認知の性差の理由や確率概念の説明の難しさ、自然放射線の説明や能動的対応法の効果等について、熱心な意見交換がなされた。

(3) その他

次回は、厚生労働省関係者を招聘し、同省が検討を進めている医療被ばくの適正管理に関する情報共有と意見交換を行う。

以上